別紙

ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）計画書

当該工事において、施工プロセスの各段階および作業内容において、

ＩＣＴを活用する場合は、左端 のチェック欄に「レ」と記入する。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 施工プロセスの段階 | | | 採用する技術番号 | 適用技術・機種 |
| □ | ①３次元起工測量 | |  | １　音響測深機を用いた起工測量  ２　レッド測深等従来手法による起工測量（※）  （※）上記２）による起工測量を実施した場合は、計測点同士を結合し、ＴＩＮデータの作成ができるように測量データを取得するものとする。  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。 |
| □ | ②３次元設計データ作成 | |  |  |
| □ | ③ＩＣＴ建設機械による施工 | 【作業工種】  ・浚渫工（バックホウ浚渫船） |  | １　３次元ＭＣ または ３次元ＭＧ 建設機械  ※採用する機種及び活用作業工種・施工範囲については、受注後の協議により決定する。  ※当該工事に含まれる左記作業の工種のいずれかでICT建設機械を活用すれば良い。 |
| □ | ④３次元出来形管理等の施工管理  （※右欄の技術番号２の出来形管理  を選択した場合は、費用計上の対象外） | |  | １　音響測深機を用いた出来形管理  ２　施工履歴データを用いた出来形管理  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。  ※ただし、上記、２　施工履歴データを用いた出来形管理については、「３次元出来形管理・３次元データ納品費用、外注経費等の費用」の対象外となるので注意すること。  ※「①３次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。 |
| □ | ⑤３次元データの納品  （※④右欄の技術番号２の出来形管理  を選択した場合は、費用計上の対象外） | | ①②④により作成した３次元データを、工事完成図書として電子納品する。 | |

注 1) ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）の詳細については、ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）特記仕様書及び試行要領によるものとする。

注 2) 具体的な工事内容及び対象範囲については、契約後、施工計画の提出までに、発注者へ提案・協議し決定する。

注3）ＭＣとはマシンコントロール機能、ＭＧとはマシンガイダンス機能をいう。